

くと思われるからである。

後者の場合が特に問題ではないだろうか。父親は働き家族の糊口をしるぎ、人生のより豊富な経験を次の世代へと引継ぐべく努力しているがゆえに、尊敬され、又権力も持っているはずである。職業は、種々な経過もありたとえ自分の意に染まらなくても、妻子を養わんが為に働いている場合が多いと思う。どの様な職業であれ、黙々と努力する事が大事であり、充分に誇りに思つて余りあるし、又尊敬されなければならぬと思う。ところが他人と比較され○○さんの家は、課長になったのに、とか、○○さんの家では自動車を買ったとか、比較する事によってのみ評価されたのでは迷惑千萬と思う。

人生の目的が、人より一歩先んずる事のみにおかれたのでは、手段がいつの間にか目的となり、達成出来ない時の嘆きが大きすぎはしないだろうか。

尊敬あるべき父親が、家中で悪者の見本にされた時、働く意欲は減退し、金扱いも激しくなるがために、被害者がいつの間にか加害者になり、父をいじめた加害者も被害者になるのではないだろうか。

子供も又しかり、勉強の目的も知らず、ただ一歩先んづるが為に、能力以上の努力を強いられ、得手好きな道にも進めぬ時、ノイローゼになったり、自殺をしたりし

て親に悲しみを与え、被害者から加害者となり、親も又加害者から被害者になるときではないだろうか。

第三に我家の事であるが、

以前は、肩を叩いたり、使に行ったり、社等の掃除などをやると、御苦労さんといわれて、たまに駄賃をもらった記憶がある。たとえ報われなくても、自らの善意から発したものにだけに、喜びが残った。

日本経済が、戦後世界に類をみない急激な発展を遂げたために、経済（金）万能となり、反対給付を前提とする行為が多く見受けられるようになってきたと思われる。ゴミを拾いに行こうといつて、日曜日だからゆっくりしようという言葉の内には、無償の行為は、いやだ。薬をしたい、という気持ちも芽生えて来たなと思う。

「文句があるならついて来るな、お父さんが働いて飯を喰わしているのだから、屋敷は抜きた。他人が捨てた物だからといって、お前が拾わなくて、誰が拾う。」という、ウーンといつてついてくる。

薬をして成果を得ることにこした事はない。しかし全て薬をして成果を得られるほど世の中甘くはないし、又薬をするくせがつくと成果を得らぬ時の反動は大きいと思う。

一つの成果を得るには多くの労を費やすべきであると